

## 研究室紹介

### 飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室

遺構調査室の具体的な業務は、発掘遺構関連資料の整理・管理と遺構そのものの研究、それに建築関連遺物の調査・研究です。

前者は、発掘調査に際して作成した遺構カード・日誌・実測図、測量成果簿、空撮データ等々、要するに、発掘調査における遺物以外の成果物・情報を管理し、そのデータを駆使して遺構の研究をおこなうことです。単に発掘データの管理といっても、調査部創設以来、30年間分ありますから容易ではありません。後者は、例えば、山田寺回廊の出土部材のような、建築関連遺物の調査と研究があげられます。

遺構調査室の構成メンバーは3人。室長を除く2人は庭園と建築の専門家で、発掘調査は研究所に入所してからまさに現場たたきあげです。1年のうち3ヶ月の調査期間は、考古学専門の同僚に負けじと奮闘の日々が続きます。

また、室員はそれぞれ文化遺産研究部の遺跡研究室、同部建造物研究室を併任しているので、庭園の実測調査や古民家の調査などの仕事もあります。そこで欠かせないのが、補佐してくれる3人のアルバイト女性陣。手際の良さは逸品で、時には室員も注意を受けてしまいます。

彼女たちの主な仕事場所は製図室。年度末は奈文研紀要をはじめとする出版物の図面作成に追われ、多忙を極めています。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 箱崎和久)



遺構調査室を支えるスタッフ（製図室にて）